

## なす(ハウス) 2月の管理について

### 1 温度管理

日中のハウス内温度は午前中は28～30℃、午後は25℃を目標に管理しましょう。ハウス内湿度を下げるため、15～16時頃に空気の入れ換えを行いましょ。

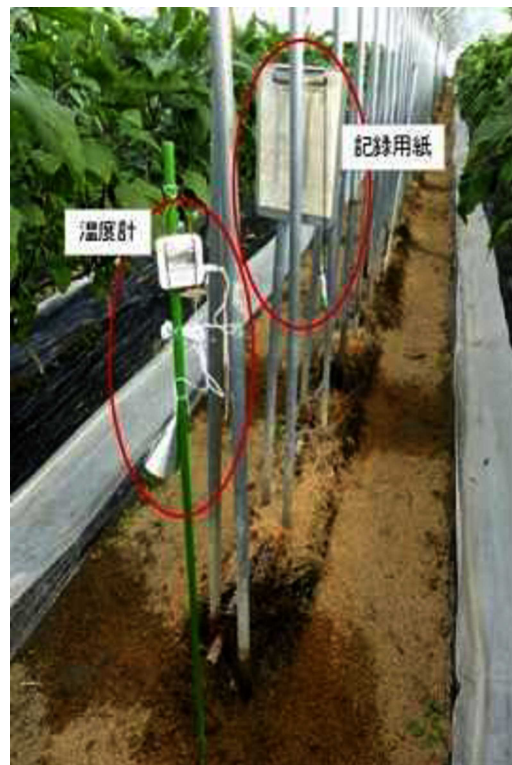
夜温は最低気温12℃以上を確保しましょう。曇雨天等で日照量が少ない日には、夜間の最低温度を2℃位下げましょ。

ハウス内張資材等により保温に努めましょ。

#### 【ワンポイント】

最高最低温度が確認できるデジタル温度計活用が有効です。用紙に記録することで日々の温度変化を数値で把握ましょ。ハウス内の気温のほか、ハウス内の地温やハウス外の気温も同時に測ることで環境変化がより分かりやすくなります。

また、長年活用している暖房機の温度計が正しい温度を測定しているか、別の温度計で確認ましょ。



### 2 葉かぎ

採光性を高め地温の上昇を図るため、日光が地表面に当たるよう配慮ましょ。その際かいた葉は地面に放置すると地温の上昇を妨げるためハウス外へ除去ましょ。

葉かぎは病虫害被害葉、下垂している古葉、大きすぎる葉等を中心に行いましょ。一度にたくさんの葉をかぐと、草勢が低下し、すすかび病などの発生原因となる場合がありますので注意ましょ。

### 3 側枝の処理

側枝は第1花の上葉1枚を残し摘芯し、収穫後は1芽を残して切り戻ましょ。

着果しなかったり不良花の着いた枝は早めに除去ましょ。

### 4 着果調整

なりこむと草勢が弱るので、不良果や腋芽の整理を行なって着果調節ましょ。

草勢が弱り始めたときは、やや小さめの果実で収穫し、樹勢の回復を図りましょ。

## 5 追肥及びかん水

低温期は追肥料が多いと、ガス害を招きやすいため、適量で追肥しましょう。

地温の低下を避けるため、かん水は晴天日の午前中(地温が上昇する10～11時頃)に少量ずつ行いましょう。

### 【ワンポイント】

マルチの下の水分の状態を確認し、かん水を行いましょう。人による確認に加え土壤水分計の確認も有効ですので活用しましょう。

## 6 病虫害防除

多湿条件が続くとすすかび病、灰色かび病等が発生しやすくなるため、水管理の適正化、日中の換気、夜間早朝の加温等によりハウス内の湿度低下を図るとともに、伝染源となりうる罹病果葉や開花後の花弁は速やかに取り除きましょう。